

第2章 所沢市の文化財の概要

第1節 指定等文化財

文化財には国・埼玉県・所沢市が指定したもののほか、国や市に設けられた登録制度によるものもあります。ここでは指定等の概況を示すとともに、どのような文化財があるか類型ごとに具体的に説明します。

1. 指定等文化財の状況

令和8（2026）年3月末現在、本市の指定等文化財の件数は122件で、内訳は表2-1のとおりです。なお、本市には文化財の保存技術に選定されているものはありません。

表 2-1 指定等文化財件数

令和8（2026）年3月末現在

類型		国 指定・選定	国 選択	県 指定	市 指定	国 登録	市 登録	指定 小計	登録 小計	合計
有形文化財	建造物	3		2	7	11	0	12	11	23
	美術工芸品	絵画		1	10	0	0	11	0	64
		彫刻		0	11	0	1	11	1	
		工芸品		0	7	0	0	7	0	
		書跡・典籍		0	5	0	0	5	0	
		古文書		0	9	0	0	9	0	
		考古資料		1	8	0	0	9	0	
		歴史資料		0	11	0	0	11	0	
	小計	3		4	68	11	1	75	12	87
無形文化財		1	0	0	0	0	0	1	0	1
民俗文化財	有形の民俗文化財	0		0	14	0	0	14	0	16
	無形の民俗文化財	0	0	0	2	0	0	2	0	
	小計	0		0	16	0	0	16	0	16
記念物	遺跡	0		2	9	0	0	11	0	18
	名勝地	0		0	1	0	0	1	0	
	動物・植物・地質鉱物	1		0	2	0	0	3	0	
	旧跡			3				3		
	小計	1		5	12	0	0	18	0	18
文化的景観		0						0		0
伝統的建造物群		0						0		0
合計		5		9	96	11	1	110	12	122
埼玉県選定重要遺跡			1							

※斜線は法令に指定等の規定がない区分を示します。

※「旧跡」は埼玉県特有の文化財指定区分です。

本市の指定等文化財の特徴は、有形文化財と民俗文化財ならびに記念物に見られます。なかでも大きな割合を占めているのが有形文化財で、特に建造物は国登録も合わせると23件あり全体の5分の1を占めています。このほか美術工芸品のなかの絵画、彫刻、歴史資料が件数が多い類型です。

続いて民俗文化財は、人々の暮らしや信仰、生業、諸職、祭礼行事に関わる有形の民俗文化財が14件で、無形の民俗文化財は民俗芸能が2件です。

また、記念物は、所沢で起こった歴史上の象徴的な出来事や痕跡を残した遺跡、昔から語られてきた伝承を残し観賞上価値の高い名勝地、及び動物・植物・地質鉱物です。指定件数の内訳は、遺跡11件、名勝地1件、動物・植物3件、地質鉱物0件、旧跡3件です。遺跡と旧跡は県指定のものがあり、動物は国指定のミヤコタナゴ、植物は市指定のクマガイソウ群落とキャラボクがあります。

※旧跡は埼玉県特有の文化財指定区分です。昭和36（1961）年4月1日付けで埼玉県文化財保護条例を一部改正し、従来県指定史跡に指定されていたもののうち、指定替え基準に該当するものが「史跡」から「旧跡」に指定替えされました。
指定基準は表2-2のとおりです。

表2-2 旧跡指定基準

1.	指定地域がばく然とし、現状変更の制限が無理なもの
2.	顕彰を意味する墓、碑、生地等
3.	歌謡遺跡
4.	現状変更が著しく、原状のないもの
5.	史実にもとづかないもの

「文化財時報第6号」
（昭和37年埼玉県文化財保護協会発行）

2. 指定等文化財の概要

1) 有形文化財

【建造物】

建造物のうち国指定は、^{きゅうたいとくいんれいびょうちよくぐもん}旧台徳院霊廟 勅額門・^{ちょうじもん}丁子門及び^{おなりもん}御成門があります。これらの門は、寛永9（1632）年に芝（現東京都港区）の増上寺旧境内に建立された、徳川幕府2代将軍徳川秀忠の霊廟の門です。台徳院霊廟は、昭和20（1945）年の東京大空襲で大部分が焼失しましたが、勅額門・惣門・丁子門・御成門の4棟は戦火を免れ、惣門を除く3棟が昭和38（1963）年に現在地の狭山山不動寺境内に移築されました。

小野家住宅は、近世開拓農家の住まいとして18世紀初めに建てられたと推定されます。木造平屋建ての入母屋造り、間口が14mある茅葺屋根の建物で、内部は右側に土間があり、土間の左側は囲炉裏のある板敷の広間、さらにその左に畳敷きの8畳間と板敷の4畳間を配しており、武蔵野の典型的な民家の間取りとなっています。



写真 2-1 旧台徳院霊廟勅額門



写真 2-2 小野家住宅

黄林閣^{おうりんかく}は、電力の鬼といわれた実業家で茶人としても名高い松永安左エ門の旧別荘「柳瀬荘」の主要建物です。天保 15（1844）年に柳窪（現東京都東久留米市）の大庄屋であった村野家の住居として建てられ、昭和 5（1930）年に松永が譲り受けて現在地に移築しました。柳瀬荘内には、書院造りの「斜月亭」や、茶室の「久木庵」なども残されています。

県指定のうち、狭山山不動寺境内にある**多宝塔**は、大阪府高槻市の畑山神社境内にあったものが昭和 35（1960）年に現在地に移築されたものです。

このほかの県指定及び市指定の建造物はその多くが社寺の建造物であり、江戸時代から明治時代初期に建立されたものです。社寺以外の建造物に**旧田中家穀倉**^{こくくら}があります。これは、江戸時代に穀物の貯蔵所として使われていた建造物です。

次に国登録のうち、**所沢郷土美術館主屋・長屋門・土蔵**は、医師を務めた平塚家の建物です。平塚家は、9代から12代まで4代にわたり医師を出した家で、9代の菊川儀角は、川越藩主の松平大和守家の侍医を務めた医師で、医家の格式を伝える貴重な近世住宅遺構として、所沢市内において初めて国の登録有形文化財になりました。現在、建物のうち主屋は、私設美術館の「所沢郷土美術館」として公開活用されています。

旭橋は、鉄筋コンクリート造の単桁橋（1本の桁を両端2点の支点で支える構造）です。日本最初の飛行場である所沢飛行場の開設（明治 44（1911）年）に伴い、所沢駅から飛行場へつながる道（飛行機新道）が整備された際に東川に架けられました。当初は土橋でしたが、昭和 5（1930）年に空都所沢にふさわしいモダンなデザインの現在の橋に架け替えられました。親柱の装飾灯は、戦時中の金属供出で取り外されたと伝わり長年失われていましたが、資料調査によって「埼玉県行政文書」から架替工事の関係書類が発見され、これをもとに、装飾灯の復元事業を開始し、市政施行 75 周年にあたる令和 7（2025）年度に復元をしました。

旧和田家住宅（クロスケの家）主屋・製茶工場・土蔵のうち、主屋は木造2階建て瓦葺きの建造物です。明治 35（1902）年頃の建設と推定され、昭和 32（1957）年に県内の越生町から移築されました。一般的な農家の土間は、時代とともに小さくなる傾向にありますが、製茶の過程で生葉^{なまは}を広げる必要から、広い土間を有している点に特徴があります。



写真 2-3 黄林閣



写真 2-4 所沢郷土美術館長屋門



写真 2-5 旭橋（令和 7 年に電灯を復元）



写真 2-6 旧和田家住宅（クロスケの家）主屋

秋田家住宅店舗兼主屋・土蔵・離れ・門及び塀
 は、寿町の銀座通りに南面して店舗を構える商家の建物で、奥に細長い短冊状の敷地に、店舗兼主屋、土蔵、離れが続けて建てられ、土蔵の裏にある離れの庭は門及び塀に囲まれています。秋田家は屋号を「井筒屋」といい、所沢の織物産業の発展を支えた綿糸商でした。初代の伊左衛門は、文政9（1826）年に所沢市上安松の秋田音松の次男として生まれ、分家して当地で商いを始め、2代の伊三郎とともに事業を拡大したといわれています。



写真 2-7 秋田家住宅店舗兼主屋

【絵画】

絵画は県指定が1件ある以外は市指定の文化財です。県指定の**北野天神社縁起 付 旧軸木七本**は、室町時代初期に作られた絹本極彩色の掛幅です。市指定は、所沢ゆかりの石川文松や三上文筆の作品のほか、**観斎筆 煙草屋図大絵馬**や屏風仕立ての**狩野洞雲筆 仙人遊戯図**、**両界曼荼羅**や**不動明王三尊**などの仏画、さらに川越出身画家の**小茂田青樹写生画**があります。



写真 2-8 北野天神社縁起 付 旧軸木七本

【彫刻】

彫刻は、いずれも寺院の仏像彫刻で市指定です。山口地区の**金乗院**の**木造千手観音及び両脇侍像**は平安時代の創建当時の作と推定され、本市域最古級の仏像です。このほか、鎌倉時代から室町時代にかけて創建された寺院の仏像は創建時代に製作されたものが多いと考えられます。来迎寺の**木造阿弥陀如来及び両脇侍像**は鎌倉時代後期の作で、精緻流麗な彫刻表現は鎌倉彫刻を代表する美作と評価されています。

【工芸品】

工芸品は、いずれも市指定で、刀剣が4件あり、江戸時代末期に吾妻地区久米の刀鍛冶であった平塚寿次の作になるもので、**脇差銘武州久米住人君万歳寿次はじめ**、**双鳥草華文八稜鏡**、**朝鮮式銅鐘**、**銅製三尊懸仏**があります。

【書跡・典籍】

書跡4件、典籍1件はいずれも市指定です。書跡のうち、**斎藤鶴磯書七言律詩**及び**斎藤鶴磯書坂稻荷神社幟**の2件は江戸の文人で所沢に20年間在住した斎藤鶴磯の書です。また、**西郷南洲書五言絶句・勝海舟書和歌**、**勝海舟書『求友館』扁額**の2件はいずれも、江戸城無血開城に尽力した勝海舟と所沢との関わりを示します。典籍の1件は薬王寺の**大智度論**です。全100巻を50冊にまとめた江戸時代の書物ですが、インド仏教の百科全書的な性格をもつ注釈書です。

【古文書】

古文書は9件です。そのうち、**弥右衛門覚書**は後に川越いもの発祥につながるさつま芋の作り始めに関わる古文書です。**澤田家文書**は幕末から明治初期にかけて寺子屋「北広堂」を開設し、多くの門人を教えた独自の教科書などの古文書、**岩岡家文書**は江戸時代から明治時代にかけて名主並びに戸長として活躍した旧家の古文書です。また**天正十九年中根伝七郎宛徳川家康朱印状**は久米村の領主であった旗本中根氏への知行宛行状です。このほか**北野天神社中世文書**、**旧玉宝院修験文書**、**桜木神社文書**などは社寺に関わる古文書です。



写真 2-9 勝海舟書『求友館』扁額

【考古資料】

考古資料のうち、県指定の**妙善院五輪塔**は鎌倉時代から南北朝時代の五輪塔の特色をよく残した石造物で、空輪・風輪・火輪・水輪・地輪の五つの石のうち地輪に「嘉暦四年」の刻銘があります。板石塔婆（板碑）3件、中世武蔵武士の墓塔2件のほか、**漆紙文書**、**膳棚遺跡出土縄文土器及び土製品**、**山口城跡出土木製塔婆**は発掘調査によって出土したものです。

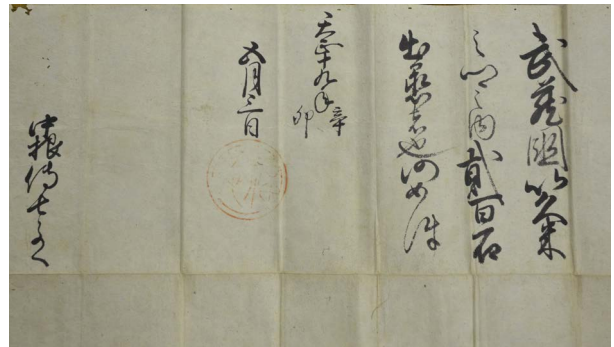


写真 2-10 天正十九年中根伝七郎宛徳川家康朱印状

【歴史資料】

歴史資料はさまざまな形態のものがありますが、件数として多いのが旗本の墓です。江戸時代の市域は旗本領が多くを占めていましたが、初期の旗本は江戸がまだ整備されていなかったため、領地で暮らし江戸城まで通っていました。そのため、領地で亡くなると領地の寺院に埋葬されることが多く、それが現代まで残されています。ほかに、江戸時代に慈善事業で知られた人物を顕彰した**日歌輪翁之碑**、肖像を領地の菩提寺に納めた**旗本沢氏画像**、**金乗院安永九年算額**などがあります。明治時代以降の近代の歴史資料として、**齊藤家文書及び関連史料**、**鈴木家（鈴源）の所沢飛行場と近代を語る資料**があります。前者は、鉄道関係をはじめ政治、社会、教育などの近代所沢の歩みを物語る古文書などの資料、後者は所沢飛行場の関連や明治、大正、昭和時代の地域社会の推移を知る古文書、掛軸類、絵葉書、写真などの資料です。



写真 2-11 妙善院五輪塔

2) 無形文化財

無形文化財は1件（国指定）あります。

尺八は、竹製縦吹き管楽器の一種で、芸術上特に価値が高く、日本の音楽史上に重要な地位を占めるものです。令和4（2022）年に重要無形文化財に指定され、本市在住の善養寺恵介氏が令和7（2025）年に各個認定保持者として追加認定されました。



写真 2-12 重要無形文化財「尺八」
（各個認定）保持者（善養寺恵介氏）

3) 民俗文化財

【有形の民俗文化財】

有形の民俗文化財は14件あります。このうち「ところざわまつり」で使用されている山車は3件あり、このうち2件は人形及び人形銘札付です。人形のうち1件は2代原舟月作はらしゅうげつの関羽と周倉で、1件は3代原舟月作の加藤清正です。特に2代原舟月の作は類例が少なく貴重です。富士講に関わるものとして、荒幡の富士ほか富士講記念碑があり、当地で富士山信仰が盛んであったことがうかがえます。ほかに地場産業の文化財である所沢緋附製作用具一式や安松の竹細工から職人の技や創意工夫のあとがわかります。また、茶業農家の衣生活資料と旧和田家の衣生活資料は農家のくらしや衣料リサイクルの知恵と工夫を伝える文化財です。



写真 2-13 御幸町山車及び2代原舟月作人形「関羽・周倉」附人形銘札一枚



写真 2-14 安松の竹細工

【無形の民俗文化財】

岩崎彫獅子舞いわさきささらし しまいは、市内山口地区岩崎に伝承されており、毎年10月の第2土曜日に瑞岩寺すいがんじで行われます。起源伝承によると、岩崎村を知行した旗本宇佐美助右衛門長元が、慶長19（1614）年の大坂冬の陣で戦功を立て、その帰途に京都へ立ち寄り3頭の獅子頭を買い求め、獅子舞の師匠を伴い凱旋し、村の若者に稽古をさせたのが始まりと伝わります。戦争で一時途絶えていましたが戦後復活し、昭和44（1969）年に市が無形の民俗文化財に指定し「岩崎獅子舞保存会」によって受け継がれています。

重松流祭ばやしじゅうまりゅうは、所沢で生まれた古谷重松が編み出した囃子の流派です。「じゅうま」は重松の愛称であり、所沢を中心として周辺地域や東京都多摩地方にも伝承されています。重松流の特徴は、テンポの良さと屋台囃子の小太鼓二つの掛け合いにあるといわれています。岩崎彫獅子舞と同様に昭和44（1969）年に市が無形の民俗文化財に指定し、各地域の囃子連や、「重松流祭囃子保存会」によって受け継がれています。



写真 2-15 岩崎彫獅子舞



写真 2-16 重松流祭ばやし

4) 記念物

【遺跡】

砂川遺跡（旧石器時代）、**膳棚遺跡**（縄文時代）、**東の上遺跡**（弥生時代、奈良平安時代）、**滝之城横穴墓群**（古墳時代）は、所沢の各時代を代表する遺跡です。次に中世は、鎌倉時代末期の鎌倉攻めの際に戦死した武士を供養した板石塔婆があったとされる場所を記念して建てられた**元弘青石塔婆所在跡**^{げんこうあおいしとう ば}のほか、県指定として**根古屋城跡**と**滝の城跡**があります。根古屋城跡は、武蔵武士山口氏の有事の際の城と伝えられ、遺構は山口貯水池内に所在しています。滝の城跡は室町時代後期に東川と柳瀬川の合流点付近に築かれた平山城です。築城者は諸説ありますが、最終的には相模国から進出してきた小田原北条氏のものとなります。しかし、天正 18（1590）年、天下統一を図る豊臣秀吉の小田原攻めの際に落城したとされています。

そのほか、**明治天皇行在所跡**は明治 16（1883）年に明治天皇の飯能行幸で所沢に宿泊した場所で、**航空発祥の地**は明治 44（1911）年に日本初の飛行場が開設され、初飛行が行われたことを記念した場所、**木村・徳田両中尉墜落地**は大正 2（1913）年に日本初の航空犠牲者を出した事故現場となった場所です。さらに、**弘法の三ツ井戸**は弘法大師が示した場所に水脈があったと伝えられる場所です。

【旧跡】

旧跡は、中世と近世の遺構です。中世は武蔵武士山口氏の拠点であった**山口城跡**と、鎌倉時代末期に新田義貞が鎌倉攻めに向かい幕府軍と戦った場所とされる**小手指ヶ原古戦場**です。近世は川越藩による新田開発の遺構で整然とした地割の様子が今に伝えられている**三富開拓地割遺跡**です。

【名勝地】

市指定の**尊桜の歌碑**^{みことさくら}は、日本武尊が東征の折にここを訪れ桜の木を植えたと言われる伝承を歌に詠んだ記念碑として北野天神社境内に建てられました。

【動物・植物・地質鉱物】

動物は、昭和 49（1974）年に国の指定となった**ミヤコタナゴ**があります。かつて関東地方の湧き水のある池や沼、水田を流れる小川などに生息していたミヤコタナゴは、所沢市では昭和 58（1983）年を最後に自然の状態で確認されていませんが、種の保存に努めています。植物は、**クマガイソウ群落**、**キャラボク**が市の指定となっています。



写真 2-17 砂川遺跡（昭和 41 年）



写真 2-18 航空発祥の地（所沢航空記念公園）



写真 2-19 ミヤコタナゴ

第2節 未指定文化財

1. 未指定文化財の状況

令和8（2026）年3月末現在、把握している未指定文化財の件数は4,035件であり、内訳は表2-3に示したとおりです。これらの傾向は、以下のとおりです。

未指定文化財のうち有形文化財では歴史資料が最も多い件数を示しています。内訳は市内に所在する記念碑や板石塔婆（板碑）などの石造物が中心になっています。古文書は市史編さん事業で調査・整理した旧家の所蔵文書の件数です。建造物は、平成9（1997）年から同13（2001）年に実施された中心市街地再開発事業にともなう建物調査で把握された商家の建物のうち、現存する件数を含んでいます。また絵画と書跡・典籍は、長久寺の格天井絵や山口観音の十八世亮盛の著作物が調査で明らかになっています。

続いて民俗文化財は、有形が1,900件以上、無形が120件余を把握しています。有形の民俗文化財は、その多くが庚申塔や地蔵などの石造物です。石造物は信仰の対象となるものは民俗文化財に属し、それ以外は歴史資料に属します。無形の民俗文化財は、地区ごとに行われるお囃子や祭礼行事などのほか、仕事歌や子守歌などの民謡も含まれます。

記念物のうち、遺跡は発掘調査で調査報告書が刊行されている指定以外の遺跡と、歴史的な場所として由緒・由来のある場所があります。動物・植物は、「生物多様性ところざわ戦略」にあげられている数を入れたものです。それらは動物と植物を合わせて450種類に及びます。

文化的景観は、地区の文化遺産として認定された景観や市で実施している「とことこ景観資源」制度で認定された景観のうち、歴史の感じられる建物や愛着のある建物などです。

以上、表2-3にあげられていない調査途中のもの、未整理のものなどがあり、表中の数値は今後増えると考えられます。また、名勝地、伝統的建造物群、文化財の保存技術がカウントされていないのは、把握調査が行われていないためです。

表 2-3 未指定文化財件数

令和8（2026）年3月末現在

類型		件数	
有形文化財	建造物		396
	美術工芸品	絵画	3
		彫刻	2
		工芸品	4
		書跡・典籍	1
		古文書	138
		考古資料	332
		歴史資料	449
無形文化財		0	
文化財 民俗	有形の民俗文化財	1,918	
	無形の民俗文化財	127	
記念物	遺跡	204	
	名勝地	0	
	動物・植物・地質鉱物	450	
文化的景観		11	
伝統的建造物群		0	
文化財の保存技術		0	
合計		4,035	

2. 未指定文化財の概要

1) 有形文化財

【建造物】

歴史的建造物は、指定されているもの以外では、これまで調査された建造物や社寺建築があります。たとえば、平成9（1997）年から同13（2001）年に実施した中心市街地歴史的建造物調査によって把握された建物は、調査して20年余を経過しているため、すでに取り壊されたり、移築されたりしていますが、26件が残されているほか、3件の建物は、後世の復元も視野に解体の際に記録し部材を保管しています。残されている建造物で特筆すべきは、明治天皇行在所跡になっている齊藤家住宅です。齊藤家住宅は江戸時代末期に建てられた商家の見世蔵造りで、当時の面影を伝えています。また北野天神社の諸神宮は室町時代と推定される建造物です。さらに昭和時代初期に建設された山口貯水池も近代遺産であり建造物としても含まれます。



写真 2-21 齊藤家住宅



写真 2-22 北野天神社諸神宮

【絵画】

絵画は、市史編さん事業並びにその後の調査で把握した文化財です。たとえば、長久寺（吾妻地区）の格天井絵は、天保年間（1830～1844）に活躍した江戸の絵師館霞舫^{たちかぼう}とその門人たちの作32面です。画題は、鳥獣、花卉、果実、草虫の類で保存状態も比較的良好に残されています。全日空の旧社章をデザインした山路真護は所沢出身の洋画家で、その作品が市に寄贈されています。



写真 2-23 格天井絵（長久寺）

【彫刻】

彫刻は、地域の遺産認定で把握した2件ほかがあります。いずれも松井地区で、一つは長源寺の薬師三尊仏像であり、もう一つは長栄寺の木造閻魔像です。前者は戦国末期に長源寺の近くにあったとされる北条氏照の守本尊として地域に知られた仏像です。また後者は関東一の大閻魔像として伝わる仏像です。

【工芸品】

工芸品は、市史編さん事業の調査で把握した鳩峯八幡神社の銅鐘や個人所蔵の応永三十二年鰐口などがあります。また、山口地区上山口の狭山山不動寺に所在する銅燈籠は、増上寺にあったものを昭和30年代に当地に移設され近年の調査により76件が把握されました。さらに、同じく増上寺から移設され、各所に譲渡された石燈籠も市内に多く残っています。

【書跡・典籍】

典籍は、山口観音（金乗院）の十八世亮盛が著した『狭山三十三所観世音順礼記』があります。亮盛は当時江戸で流行った霊場記の人気作家でした。また幕末から明治にかけて薬王寺住職を務めた新田断常は漢詩人としても知られ「西遊集」などの作品を著しています。

【古文書】

古文書は、市史編さん事業以降、100 家以上の旧家から 4 万点以上の諸家文書を調査・整理しています。たとえば寛永十六年市祭文は、江戸時代の初期に所沢で市が開かれていたことを示す古文書です。また慶応二年打毀軒名絵図は武州世直し一揆の被害状況を知る貴重な資料であり、複製が埼玉県立歴史と民俗の博物館に展示されています。これらのほか、諸家文書は江戸時代から戦後にいたる市域の歴史を物語る多種多様な古文書が残されています。

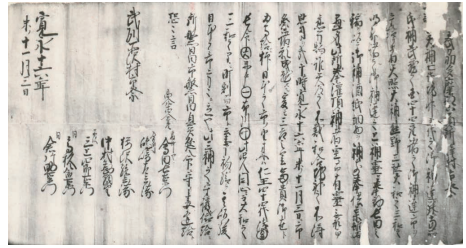


写真 2-25 寛永十六年市祭文

【考古資料】

考古資料は、埋蔵文化財調査で発掘された出土遺物のほか、社寺や地域に所在する石造物です。前者は、市内 160 以上の遺跡から出土した土器や石器などの遺物で、市が調査したものがほとんどですが大学等による任意の調査で発見されたものもあります。出土遺物は、旧石器時代から奈良・平安時代まで全時代にわたる土器や石器類であり、なかでも縄文中期の装飾的な土器は特徴的といえます。また後者は、板石塔婆(板碑)や瑞岩寺の永徳三年石造宝篋印塔ほうきょういんとうなどの宝篋印塔です。なお、石造物のうち、記念碑などは歴史資料へ、庚申塔、馬頭観音などは有形の民俗文化財に分類しています。

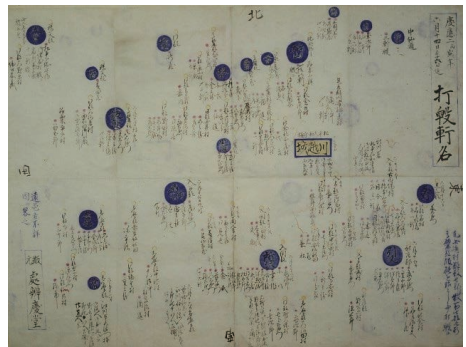


写真 2-26 打毀軒名絵図



写真 2-27 出土土器

【歴史資料】

歴史資料は、記念碑、道路・河川改修碑、句碑・歌碑、文学碑などの石造物が中心です。記念碑は、校歌碑や彰忠碑などのほか、特徴的なものに、保健所発祥の地碑があります(79 頁コラム参照)。また、道路・河川の改修碑や大正時代の各町村の道路元標も貴重な歴史資料といえます。句碑・歌碑・文学碑は所沢ゆかりの斎藤俳小星の句碑、三ヶ島葎子や若山牧水の歌碑、打木村治の文学碑などがあります。尾張藩鷹場標柱碑は市内に 2 か所確認されており、近世における市域の歴史を表す石造物です。石造物以外に、算術や剣術の奉納額や、珍しいものに三ヶ島小学校所蔵の青い目の人形があります(74 頁コラム参照)。



写真 2-29 保健所発祥の地碑



写真 2-28 三ヶ島葎子歌碑(所澤神社)

2) 民俗文化財

【有形の民俗文化財】

有形の民俗文化財は、衣食住生業用具などの民俗資料、石造物、銅燈籠、祭礼行事に使用される山車があります。民具は、市内の中富・柳瀬・山口民俗資料館に収蔵されている衣食住・生産生業・交通交易・社会生活・信仰・民俗芸能・年中行事・人生儀礼に関わる用具です。これらの民具は、昭和50年代から平成10年頃までに民俗資料館が所在する地域で収集されたものです。特に生産生業は武蔵野台地の農業に関わる、畑作用具、製茶用具、養蚕用具、機織り用具が特徴的で、使用された年代は明治、大正、昭和戦前期を中心としており、一連の生業の過程で使用される用具としてまとまって残されているものも少なくありません。

また、石造物は平成11(1999)年から同16(2004)年に市内所在の悉皆的な調査で把握したものです。近世のものは、地藏、庚申塔、馬頭観音、石橋供養塔、力石、石燈籠などで、近代以降は記念碑、戦争碑、文学碑、土木碑などの石造物です。これらの石造物は、当時の人々の信仰や活動の様子、交通や娯楽などの情報を知る貴重な文化財といえます。銅燈籠は、狭山山不動寺に76基があります。これは昭和30年代に増上寺から移設されたものです。祭礼用具は、「ところざわまつり」で出される山車で、指定以外のものがあります。



写真 2-30 製茶用具



写真 2-31 麦作用具 (中富民俗資料館)



写真 2-32 稲作用具 (柳瀬民俗資料館)



写真 2-33 庚申塔 (所沢地区)



写真 2-34 文学碑 (若山牧水の歌碑)

【無形の民俗文化財】

無形の民俗文化財は、食、祭礼行事、民謡があります。

食 台地に位置し、水田の少ない所沢は、小麦粉で作るうどんが、昔から行事のたびに膳に上ってきました。うどんは小麦粉に塩水を入れ、ぬるま湯または水を少しずつ加えて混ぜ手や足も使ってよくこねます。つけ汁で食べるのが一般的で、ゆでたホウレンソウやナスなどの野菜が「かて」として添えられます。近年は市内の「手打ちうどん」屋で、地元の味として親しまれています。

うどんと同様小麦粉で作る行事食にゆでまんじゅうがあります。小麦粉で練った皮に小豆のあんを入れ、蒸すかわりにお湯でゆでます。新麦の収穫の時期、七夕や盆などに食べたそうです。「うでまんじゅう」と呼ばれることもあります。

このほか、お茶受けとして馴染み深く、市域の農家で広くつくられたものにやきもち（一部でやきびん）があります。うどん粉とご飯の残りをコネバチに入れて混ぜ合わせ、水を加えてこねて丸め、それを平たくしてホウロクで焼いたもので、醤油または砂糖醤油をつけて食べます。

本市で昔から親しまれてきた味に、醤油の焦げる匂いについて誘われる焼だんごがあります。本来はうるち米の粉で作られ、水で練って丸め、蒸したものを竹串にさし、しょうゆを塗って炭火などで焼きます。焼だんごはもともと、作業の間に食べるおやつとして家庭で作られたようです。やがて店でも売られるようになり、今やすっかり名物として定着しました。



写真 2-35 うどん



写真 2-36 ゆでまんじゅう

コラム

焼だんご

明治時代に焼だんごの組合をつくり、八つの申し合わせ事項を決めていました。それは、

- ①竹串は青竹を使用し、5寸5分（約16 cm）、下から1寸（約3 cm）のところに節があり、青竹のついた1分（約3 mm）角であること
- ②1串4個のだんご、そのうち上から下のだんごは直径1寸のまん丸で、中の2個は直径8分のまん丸だんごとする
- ③醤油は所沢産のヤマホ（深井醤油）に限ること
- ④隠し味として1割の酒を混入すること
- ⑤毎月5日は久米の水天祭りで、お産の神様で嫁さんお姑さんの参拝が多いので参拝の帰りには子持ちだんごを大サービスすること
- ⑥2本で1皿3銭とすること
- ⑦包装は必ず経木で包み冷やしてから新聞紙でくるむこと
- ⑧焼きの炭は「消し炭」に限ること

といった内容でした。



写真 2-37 焼だんご

祭礼行事 神社や寺院などで季節ごとに行われる祭りは、身体の安全や豊作を祈ったり、収穫に感謝したりする意味だけでなく、生活の節目としてくらしに深い関わりを持っていました。正月は、家内安全や商売繁盛を祈願するため、町場の人々は吾妻地区の初水天宮にお参りに行きました。3月は北野天神社で賑やかな春祭りが行われ、夏を前にした7月は疫病除けの祭礼である天王様が各地区で行われます。9月は所澤神明社で秋の祭礼があり、もともと山車まつりはこの時数年に一度の間隔で行われます。10月は山口地区の瑞岩寺で岩崎鯨獅子舞が奉納されます。暮れは松井地区の熊野神社で鳥居にわらで作った蛇を飾る若注連神事が行われます。

これらの行事は、かつては祭りが決められていましたが、近年はサラリーマン世帯が多くなったことから土曜日、日曜日に開催日を変更するところが多くなり、内容も少しずつ変化しています。たとえば10月中旬に開催される「ところざわまつり」は、かつては山車まつりとして9月15日に開催されていましたが、開催日も含め内容もイベント化されています。

民謡 かつて農作業で歌われた仕事歌や子守歌、遊び歌がありました。



写真 2-38 初水天宮（吾妻地区）



写真 2-39 熊野神社の若注連神事（松井地区）



写真 2-40 とところざわまつり



写真 2-41 林の天王様

表 2-4 所沢市の歳時記

※ 2024 年の開催日を示すものですが、作成時の現行に合わせて一部修正があります
 ※太字は所沢市指定無形民俗文化財を示しています

月	日	歳時	場所
1 月	1 日	元旦祭・歳旦祭	市内各神社・寺院
	1 日	熊手市	所澤神明社（宮本町）
	5 日	久米水天宮大祭・だるま市	水天宮（久米）
	下旬	凧・羽子板展示	所沢市役所
	下旬の日曜日	所沢シティマラソン大会 ～航空発祥の地 ひこーきまらそん～	西武球場前駅周辺
2 月	3 日	節分祭	市内各神社・寺院
	中旬～下旬	初午	藤森稲荷（北野南）ほか
	2月中旬～3月中旬	ひな人形展示	野老澤町造商店
3 月	10 日	金毘羅堂大祭	東光寺（坂之下）
	21 日	北野天神社春季例大祭	北野天神社（小手指元町）
	第 1 土・日曜日	早春の風物詩・雪割草展示会	所沢市立吾妻公民館
	第 2 日曜	初午祭	坂稲荷神社（御幸町）
	最終日曜日	金仙寺 桜まつり	金仙寺（堀之内）
	下旬	桜の木展示	市内桜の名所
4 月	8 日	花祭り	市内各寺院
	20・21 日	小手指ハナミズキまつり	小手指ハナミズキ通り
	20 日	所沢市子ども写生大会	ところざわサクラタウン・東所沢公園
	27 日	ところざわ新茶まつり	エミテラス所沢
5 月	1 日	寅まつり	多聞院（中富）
	19 日	戦国滝の城まつり	東所沢駅から滝の城址一帯
6 月	第 1 日曜日	人形供養祭	所澤神明社
	30 日	夏越の大祓い	所澤神明社ほか
7 月	1 日	荒幡富士の山開き	荒幡富士（荒幡）、浅間神社
	中旬	野老澤行灯廊火	元町コミュニティ広場、所澤神明社
	中旬	天王祭（天王様）	八雲神社（有楽町、北秋津）、林神社、八幡神社（久米）ほか
8 月	20・21 日	弘法まつり	弘法の三ツ井戸（西所沢）
	下旬	地蔵まつり	下安松ほか
9 月	15 日	所澤神明社 秋季例大祭	所澤神明社
	29 日	やぶさめ神事	八幡神社（糎谷）
10 月	第 2 土曜日	岩崎彫獅子舞	瑞岩寺（山口）
	第 2 日曜日	ところざわまつり	所沢市内中央地区各通り一帯
	最終土・日曜日	所沢市民フェスティバル	所沢航空記念公園
	下旬	所沢市連合菊花展覧会	所沢市役所 1 階市民ホール
11 月	15 日	七五三	市内各神社
	20 日	えびす講	市内各地
	11 月下旬～2月中旬	所沢駅西口イルミネーション	所沢駅西口駅前広場、ワルツビル、プロベ通り、ファルマン通り
12 月	31 日	多聞院大晦日行事	多聞院
	31 日	若注連神事	熊野神社（西新井町）

【出典／所沢市文化芸術振興ビジョン、一般社団法人所沢市まちづくり観光協会】

3) 記念物

【遺跡】

遺跡は、いわゆる埋蔵文化財包蔵地として調査対象となる場合の遺跡と、歴史的な場所として由緒・由来のある場所を指すものとがあります。前者は、市内 160 か所以上の遺跡のうち発掘調査報告書の出ている遺跡があげられます。和田遺跡（松井地区）や海谷遺跡（小手指地区）などがよく知られています。後者は、由緒・由来をともしなう橋梁、井戸、樹木などがある場所で地域の歴史を伝えるものです。特に目立つのは鎌倉時代末期に新田義貞が鎌倉攻めのため南下し市内で合戦に及んだことから、それにまつわる伝承地です。たとえば、誓詞橋（小手指地区）や兜掛けの松（吾妻地区）などです。また鎌倉街道上道や青梅道・河岸街道・引又道など江戸時代の古道や、保健所跡や村役場跡、鉄道の駅跡など歴史的な場所や事象を示す場所も市内各所にみられます。

【動物・植物・地質鉱物】

動物・植物は、「生物多様性ところざわ戦略」にあげられている数を入れたものです。それらは鳥類はオオタカなど、植物はカタクリ・キンランなどがあり、全部で 420 種類に及びますが、生息地・生育地の多くは狭山丘陵周辺に集中している傾向があります。

地質鉱物は、関東ローム層に覆われた武蔵野台地と丘陵に見られる地質や鉱物があげられます。松井地区のアカバッケは柳瀬川沿いにあり関東ローム層がむき出しになった場所として昔から知られていますが、近年災害のおそれがあることから法面をコンクリートで覆ってしまい地層は見えない状態です。

4) 文化的景観

文化的景観は、地区の文化遺産として認定されたものがあげられます。認定制度を設けている松井地区は 3 か所の茶畑等をあげており、山口地区は柳瀬川源流や狭山自然公園などの景観をあげています。また市は「とことこ景観資源」制度を実施しており、その中から西武ドームなど、特に所沢らしい良好な景観を「とことこ景観賞」として表彰しています。



写真 2-42 海谷遺跡の敷石住居跡



写真 2-43 鎌倉街道上道（所沢地区）



写真 2-44 オオタカ



写真 2-45 アカバッケ

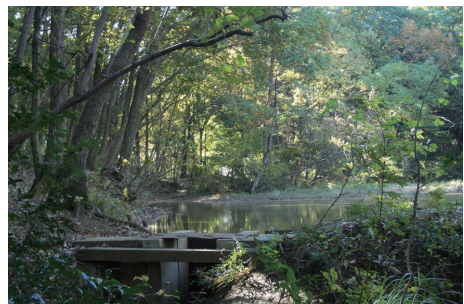


写真 2-46 菩提樹池（山口地区）

第3節 関連する制度

1) 世界農業遺産「大都市近郊に今も息づく武蔵野の落ち葉堆肥農法」

世界農業遺産は、国際連合食糧農業機関（FAO）により認定されるものです。社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接にかかわって育まれた文化や景観などが相互に関連して一体となった、世界的に重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）です。

令和5（2023）年7月、武蔵野台地に位置する川越市、所沢市、ふじみ野市、三芳町で360年以上にわたり続けられてきた伝統農法である「落ち葉堆肥農法」が認定を受けました。

2) 100年フード

日本の多様な食文化の継承・振興への機運を醸成するため、地域で世代を超えて受け継がれてきた食文化を文化庁が認定する制度です。令和3（2021）年度に初回の認定が行われ、現在300件にのぼります。本市に関わるものとして、「狭山茶」が令和5（2023）年3月に認定を受けました。

3) 埼玉県選定重要遺跡

埼玉県選定重要遺跡は、昭和44（1969）年10月1日及び昭和51（1976）年10月1日に、調査の成果に基づいて埼玉県教育委員会が選定したもので現在161件あります。名称は選定当時のもので、本市は、「砂川遺跡」、「北秋津横穴群」、「滝之城横穴群」の3件が選定され、このうち「北秋津横穴群」以外の2件は市指定文化財でもあります。

4) とことこ景観資源指定制度

市民の推薦により「景観資源候補」に登録された建築物、工作物、樹木、樹林地、街路樹、公共施設、眺望、市民活動などのなかから、所沢らしい良好な景観の形成に資するもの、文化財及びふるさとの樹を「とことこ景観資源」として指定し、この中から特に所沢らしい良好な景観を「とことこ景観賞」として表彰している制度です。それらの中には「多聞院」や「旧和田家住宅（クロスケの家）主屋・製茶工場・土蔵」など文化財に関わる景観が含まれています。

5) 地区の歴史遺産認定

11地区のうち地域連携をはかるまちづくり協議会を設立している地区で、独自に地域の歴史文化遺産を認定する制度を設けているところがあります。たとえば、松井地区は認定委員により対象を決定し、案内標示の設置やマップの作成、インターネットによる紹介を行っています。また、柳瀬地区は同様にまちづくり協議会で認定した歴史遺産に対して、柳瀬遺産標識を設置する活動を行い広く周知しています。

表 2-5 とことこ景観賞一覧

※太字は指定等文化財に関連するものを示す

平成 23 年度とことこ景観賞	No.	とことこ景観資源名称
■荒幡富士（浅間神社）	10	荒幡富士（浅間神社）
■東川の活動	64	東川の活動
■ところざわまつり	66	ところざわまつり
■所澤神明社	6	巨木に包まれた所澤神明社
	34	ケヤキ 樹高 20m 以上 幹周 6.2m
	35	ケヤキ 樹高 20m 以上 幹周 3.5m
	52	クスノキ樹高 20m 以上 幹周 3.4m
	53	ケヤキ 樹高 20m 以上 幹周 4.2m
■所沢郷土美術館	27	所沢郷土美術館（主屋、長屋門、土蔵）
■狭山湖一帯の景観	2	狭山湖より元旦の初日の出富士山
	3	狭山湖の紅葉
	7	狭山丘陵（狭山湖）
■ケヤキ並木	4	国道 463 号の櫟の木道
	76	航空公園駅前のケヤキ並木
■所沢航空記念公園一帯の景観	8	所沢航空記念公園
	19	所沢市民文化センターミューズ
	20	所沢航空発祥記念館
	21	彩翔亭
	22	所沢市立図書館本館
	72	航空公園駅前の YS-11
■三富新田	79	三富新田
平成 26 年度とことこ景観賞	No.	とことこ景観資源名称
■砂川堀のしだれ桜	1	砂川堀のしだれ桜
■東川の桜並木	65	東川のサクラ
	75	東川の桜並木
■旧和田家住宅（クロスケの家）主屋・製茶工場・土蔵	119	旧和田家住宅（クロスケの家）主屋・製茶工場・土蔵
平成 28 年度とことこ景観賞	No.	とことこ景観資源名称
■多聞院	31	多聞院毘沙門堂
	137	多聞院のハンカチの木
	161	多聞院のボタン
	162	多聞院の雪割草
	163	多聞院のクマガイソウ
■比良の丘	80	比良の丘
	100	比良の丘茶畑
■狭山丘陵の三ヶ島湿地保全活動 狭山丘陵の糍谷八幡湿地保全活動	124	山林の風景
	142	糍谷八幡湿地
平成 30 年度とことこ景観賞	No.	とことこ景観資源名称
■金仙寺	58	ケヤキ 樹高 20m 以上 幹周 3.1m
	101	金仙寺のしだれ桜
	118	金仙寺の曼珠沙華
■所沢駅西口イルミネーション	104	所沢駅西口イルミネーション
■八国山	160	八国山
令和 3 年度とことこ景観賞	No.	とことこ景観資源名称
■旭橋	28	旭橋
■ところざわサクラタウンと東所沢公園 武蔵野樹林パーク	218	ところざわサクラタウン
	219	東所沢公園 武蔵野樹林パーク
■西武ドーム	226	西武ドーム